

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800162		
法人名	株式会社 アガベ		
事業所名	グループホーム アソシエ和白		
所在地	福岡市東区和白東1丁目25-11		
自己評価作成日	平成26年11月	評価結果確定日	平成27年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

・地域行事の参加(バザー・サロン・運動会・集団防災訓練・公園清掃など)、スタッフのみの参加ではなく、入居者と共に交流を図る。去年の活動より今年度は、町内会長・民生委員からの誘いも多く、全てに参加できるように人員体制を整えた。・去年開催した「アソシエ祭」に出演したボランティアさんから多方面に繋がり、各団体からの出演依頼を頂き、施設内での演奏会(コーラス・民謡・キッズダンス等)を開催している。
 ・スタッフの入退職が少なく、互いの関わり(入居者含め)を深める中で、各問題に対して施設全体で話し合う機会を多く設け、解決策を導きだしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?acti_on_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年12月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アソシエ和白」は、小規模多機能施設と併設の2ユニットグループホームで、「アソシエ」の名称には仲間という意味があり、入居者への思いが込められている。法人は市内各所に、GH・小規模多機能やサービス付高齢者住宅など福祉事業を運営しており、施設間で、行事などの時の物品の貸し借りなど協力し合ったり、合同研修なども行っている。開設から3年経って、地域とのつながりが深まり、地域行事のバザーの参加や、歩いて10分ほどのところにある公民館でのサロン活動に参加している。毎朝横の公園での町内の方のラジオ体操には、入居者も2階のテラスや、1階の居室から参加している。入居者の日々の思いや気持ちを受け止めて個別ケアを重視し、日々の予定にないことでも柔軟に取り組みしており、外部のサービスとも協力して、訪問マッサージも活用している。今年からミーティングを各フロア毎にこまめに開くようにし、情報交換や成功事例の共有にもつながった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、施設の理念をスタッフ全員で唱和する。管理者・スタッフ共に、確認・共有を図り、実践に活かす。今年度より、スタッフに「地域交流係」を配置し、地域行事の情報の収集に努めている。行事には必ず参加し、スタッフが先頭に立ち、入居者が地域に溶け込みやすいよう、積極的に交流を図る。	玄関に法人の理念、事務所には「アソシエ和白」独自の理念を掲げられる。業務日誌にも載せて毎日目につくようにもされ、朝礼の時に唱和もしている。「人と人のつながり、地域とのつながり～」という理念から、今年は地域交流係を定め、地域との交流を深めていった。「利用者の一人ひとりの思いを～」との理念から日々の関わりを大事にして実践につなげている。	朝礼時に唱和をしたり、毎日目に付くようにして実践につなげているようだが、理念の振り返りの機会や、理念に基づいた目標をたてることで、話し合いの機会を持たれることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会費(事業所・個人共に)を納め、地域行事(サロン・祭り)には適時参加している。また、住民票が当地区にない入居者の参加も快く引き受けてくださり、楽しみにされている方がいる。毎月の公園清掃は、必ず参加し、顔なじみが徐々に増えてきている。今年度より廃品回収(アルミ缶提供)に協力し、また施設周辺の落ち葉拾い(掃除)を毎朝実施している。	今年から地域交流係を定め、職員の担当も作り連携を強化した。自治会長も協力的で案内状などを回覧板に載せてもらい、地域のボランティアの紹介から交流の輪も広がった。地域防災の参加、小学校の夏祭りの見学、毎年のアソシエ祭、ソーメン流し、餅つき会などには地域の方も招き、清掃活動には入居者と一緒に参加している。日頃も散歩の途中で、立ち寄られることもあり、入居者には個人で自治会に入会されている方もいて、地域情報も入りやすい。	ボランティアの幅を広げて行きたいという思いもあり、キャラバンメイト活動を、公民館などで開催し、事業所からの情報発信に取り組みされることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症への理解等を話し合い、地域支援の協力や提案を頂いている。また、離設が多い方の特徴を地域住民にお伝えし適時連絡をもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行うが、認知症への理解はまだ不足、特に「事故ひやり」の再発防止についての理解は課題が残る。会議でだされた案件は、次回の課題として回答するようにしている。また、家族は土日開催を希望されており、今年度末に初めて開催予定(施設行事と同日開催)	今月は家族からの要望で、餅つき会と同日開催を計画し、小規模と一緒に催す予定である。会議には地域包括・民生委員・家族・町内会長・行政などからの出席があり、ヒヤリハット・事故報告などを通して意見、アドバイスも多く、参加者の意識も高い。議事録は一部に報告している。開催予定を全家族に案内し「アソシエ通信」にも掲載している。	参加者の意識も高いので、今後は運営推進会議の中で、キャラバンメイトの活動や認知症の啓蒙などを取り組みられることを検討されてはどうか。又議事録の公開・閲覧・開示などがなされることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの見学もあり、事業所の実情・状況が適時伝えている。事業所のサービスがスムーズにいくように、運営推進会議への参加を呼び掛けている。特に、包括への連携に力を入れ、情報の共有に努める。※包括の担当者へは、運営推進会に必ず参加していただいている。	市のモデル事業をしている関係で、年に1回の視察に来ることもあり、運営推進会議への参加もあった。生活保護の方が居ることで保護課との相談は多く、介護保険の申請などは窓口に向いている。相談事は電話で行うことが多いが、運営推進会議時や、訪問時の報告などでも相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の心身に危険が及ぶと判断した場合(特に夜間帯)、サイドレールや玄関錠の施錠を行う(不審者目撃情報あり) 今後は、日中に玄関錠を解放する予定である。同時に、内部研修にて「解放の目的」をスタッフへの周知に努める。	正面玄関は、職員による電子施錠である。運営推進会議で話し合ったが、不審者が居たこともあり安全面から心配の声が多かった。リビングの掃きだし窓から気軽に庭に出ることが出来る。過去に離設もあったが、その後はその方の行動パターンが分かり、一緒に付き添って対応している。離設に備え、運営推進会議の時にも写真を配布し、町内会長や警察などにも協力してもらい通報の依頼をしている。同意書や、支援経過様式の準備もされている。	

H26自己・外部評価表(GHアソシエ和白)確定

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を毎月のミーティングにて実施。また、外部の勉強会にもスタッフが参加する。日常では、特にスピーチロックの廃止に取り組み、スタッフ同士で指摘し合えるような環境作りに努める。			
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者がいる為、各関係者より情報を収集できている。また、今年度より、選挙権が回復された為、投票に参加することができた。日常生活自立支援事業は、市のパンフレットを用い勉強会を開催した。	成年後見制度を利用している方が3名おり、入居時に協力して制度の活用につながった。制度についての研修を行い、今年は成年後見制度を利用している方の投票支援が出来た。定期的に内部研修を行い、職員の理解も深めている。資料やパンフレットも準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者・家族への説明を行い、不明な点がないかの確認を行う。また、必要に応じて(改定時等)は、書面にて説明を行い、わかりやすく提示している。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等において、ご家族の意見を確認する場を設けている。また、今年度より正面玄関に意見箱を設置している。月1回のお茶会(公民館にて)では、事前に当施設スタッフがお手伝いに伺い、地域の「声」の集約に努めている。	運営推進会議時の家族からの意見で、今回は餅つき会と会議の同時開催が計画され、家族参加の増加につながった。意見や要望は面会時に聞くことが多い。要望で、運営推進会議の日曜日開催や、出入り口のスロープの設置、裏の公園への錠をナンバー式に変えることなどが挙がって一部反映もされた。結果は運営推進会議や「アソシエ通信」で報告している。	運営推進会議の案内状は、全家族に出しているため、案内状の出欠欄に、自由記述を書いてもらうことで、様々な家族からの意見も聞きとってはどうか。また、議事録も家族全員に配布される事が望ましい。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングと、各フロアのミーティングを実施している。職員間では、申し送りノートや業務日誌を用い、連携を円滑に運ぶことができています。管理者同士の連携・決定内容は、適宜現場に伝達している。	今年から、ミーティングの機会を増やし、全体で1回、ユニット毎でも月1回話し合いを行うようにした。日頃から気付いた事は要望としてあげ、備品の配備してもらっている施設長や管理者への相談もしやすく、ミーティング等で情報共有している。レクの企画なども係を中心に、パートの方も含め全職員で意見を出し合って決めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による昇給・介護処遇改善交付金の取得、が居ぬ・内部研修において、モチベーションの向上を図っている。また、各スタッフに係を設け、責任を持って勤めることができるよう、報告会を行う。			
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接に当たり、特に条件を定めているということはない。ただし、志望動機や特技・資格等は職員の能力が最大限に活かすことができるように配慮している。(各係の任命等) 外部研修については、案内を回覧し、いつでも参加の意向を確認することができる。	男性職員もおり、年齢も20代から60代まで幅広い人材で特技を生かして勤務できている。1年毎に、係りを決めて、レク・地域交流・環境・物品・行事・リスク研修など担当を割り振り、意識を持って取り組んでもらっている。休憩時間・場所の確保もされており、職員間もお互いに教え合って協力し、コミュニケーションをとっている。希望休もあり、希望する研修の参加や、資格取得などにも、シフトの調整もなされている。	外部研修の案内など、職員のスキルアップや外部への見聞を広める機会が持てるように配慮されることに期待したい。	

H26自己・外部評価表(GHアソシエ和白)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修では、市役所等で配布されている資料やインターネットから情報を収集し、分かり易いガイドブックと共に、人権教育や接遇の研修を行っている。また、新人・中堅者研修においても同様である。	内部研修を、担当を決めて行っている。今年度は、生活保護制度に関してや、認知症高齢者の理解、倫理関係など法令に関して学んだ。法人内の新人研修などで会社の理念や接遇に関して研修を行っている。	研修系の職員からの内部研修は、行われているようだが、外部研修の参加や、人権関連団体の講師派遣や資料活用の検討が望まれる。又実践者研修や、ケアマネジャーの更新時の資料配布や、伝達研修などに取り組まれることが望まれる。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修・アソシエ全体での介護研修・管理者研修・中堅者研修並びに外部研修に積極的に参加できるよう、シフト管理を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のケアマネ会の出席・ネットワーク作り・協議会の勉強会に参加し、情報の共有を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、十分なアセスメントを行い、まずはこの施設でのサービスが本人のニーズに合致しているのか・本人が満足しているだけののか等を踏まえ、担当者会議を開いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には、十分なアセスメント・担当者会議を通して、ご家族の要望や不安等を尋ねるように努めている。また、本人がいない場所での聞き取りも大切にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・見学・担当者会議等を通じて、本人及び家族の要望を把握し、ケアプランの作成に着手する。また、当施設でのサービスが困難と判断された場合は、他の事業所や包括からの連携を図る。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に過ごす時間を多く設け、スタッフへは「常に自分がその立場・場面に置かれたらどう感じるのか」を考えられるように指導に当たっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会ができるように配慮している(夜中でない限り、面会時間は特に定めない)。可能な限り、家族と過ごす時間(外出・外泊)を多く取ってもらえるように、面会時には近況を伝えている。		

H26自己・外部評価表(GHアソシエ和白)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を通して、これまでの生活や関係を尊重すると共に、地域の活動に積極的に参加できるように努めている。個人個人で町内会費を払い、地域行事に少しでも参加できるよう配慮している。また、馴染みの美容院等は、定期的に出かけており、新しくオープンした店舗へも足を運んでいる。	近隣に住んでいた方が、町内会の活動に参加したり、「ふれあいサロン」にも参加させてもらって新たな馴染みの関係を作ることにもつながっている。海外に住んでいる家族に手紙の支援を行う方もおり、友人知人の面会も多い。正月・お盆の一時帰宅や、外出などの支援も行っている。また、今までに嗜んでいた習字や編み物などの支援の継続も支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・生活歴を十分に考慮して、利用者同士が個々にコミュニケーションを図り、新しい関係を築いていくことができるよう配慮している。また、席替えは適時行い、居室の変更は入居時にご家族に了承をいただく。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、いつでも相談が可能である旨を伝えている。また、必要に応じて、電話等の相談・支援を行っている。今年度、以前利用していた(退去された)方が数名、再度利用開始するケースがあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントはもちろん、月1回の各フロアでのミーティングでは、「新しいニーズの出現がないか」を必ず話し合う。モニタリングも含め、カンファレンスで一致した支援内容は翌日にも送りノートにより即開始する。	アセスは包括的自立支援プログラムを使用し、6ヶ月毎に見直している。今回は12月に部屋ごとの担当制にして、ケアチェック表によって担当者が本人から聴き取りを行い取り直した。今後も随時見直しを計画している。意向の確認が困難な方には、家族から聞いたり、日頃の表情や会話の中からくみ取り、申し送りやケアカンファで共有している。	基本情報が入所時のままの方もあるので、介護保険の更新時や、1年に1回は継続的な見直しを行われることが望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症発症により、好みや性格が豹変する方が多いのも現状である。入居者の何気ない一言から、思い出話を広げることができるよう、事前のアセスメントやご家族への生活歴の確認は確実にいき、情報の共有に努める。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録の内容の充実に努めている。事実行為を記載するのではなく、心理面や表情の変化など、支援に対してのレスポンスを記録するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援を通して、課題等がある場合は、スタッフ間での情報交換やカンファレンスを行う。また、支援に行き詰った時は、医療機関や家族に相談し、改めて意向の確認を適時を行う。また、ボランティアセンターや訪問マッサージ等、新しいサービスの導入も行う。	1~2人の担当制で、担当者が毎月のモニタリング、アセス、家族との連絡を受け持っている。ミニカンファを元に、プランの原案をケアマネージャーが作り、担当からも意見があればあげてもらっている。プランは6ヶ月毎や随時で見直し、各ユニット毎に1ファイルにまとめ、全員が毎日見れるようにしている。サービス担当者会議もその都度行い、プランの実施記録は日々の介護記録におり込んでいる。	サービス担当者会議に家族の参加や、他職種からの意見、提案も取り入れ、議事録に反映させることでチームで協力したプランにもつなげられることに期待したい。

H26自己・外部評価表(GHアソシエ和白)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録では、支援に対してのレスポンスを具体的に記録するように指導に当たる。支援の方法を替えた際は記録に残し、「うまくいった」ことを送りノートやカンファ時に話し合っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応困難な入居者に関して、事業所全体で情報共有を行い、協力体制を整える。個別ケアを重視し、本人が望まれる生活を可能な限り実現できるよう努める。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から馴染みのある地域活動等を把握し、入居者本人が地域住民の一人として、地域で活躍できるよう努めている。対応困難な利用者に対しては、民生委員・町内会長・ボランティアセンター等の協力を依頼している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医を継続できるが、基本的には説明・合意の下、提携医に変更していただいている。適時、他医療機関の受診が必要な際は、原則家族に付き添いや受診を依頼し、本人や家族も含め直接ドクターと話し合う機会も設けている。	団体の薬剤師の協力で、居宅管理指導を往診の後を受けている。提携医は往診と、24時間対応も行うので変更を希望する方が多いが、従来のかかりつけ医からの往診も受けることができる。他科受診は家族支援だが、同行や支援も行っている。情報は随時口頭でやり取りをしている。併設の看護師から相談も出来る。職員とは訪問診療ノートで情報共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常に情報交換を行っており、いつでも助言をもらえる体制である。提携医への連絡は24時間体制で指示を仰ぐことができ、場合によっては緊急往診にも対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護・看護・主治医紹介状を用意し、経緯や状態等の説明を行っている。病院関係者とは、適時情報交換を行い、退院に向けての話し合いを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の重度化・今まで見られなかった行動・できていたことが急にできなくなった等、入居者の変化は、適時家族と話し合いの場を設け、今後の支援を一緒に検討している。また、場合により、主治医を交えて話し合いを行い、医療面での説明を依頼することがある。	今までに看取ったケースはないが、重度化になった際、家族、医療機関と相談して退居になったことはある。希望があれば出来る限りの支援はしていく考えだが、経験がないため、提携医と一緒に支援体制を検討していく段階である。重度化になった場合、家族と病院とこまめに連携をとって対応している。	医療とのこまめな連携をとられているが、今後の看取りのケースに備えて、事業所としての指針の共有や、どこまで出来るかという方針を見極めて、文書を検討されることに期待したい。又外部・内部の研修も計画される事が望まれる。

H26自己・外部評価表(GHアソシエ和白)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアに緊急時対応マニュアルを設置。いかなる場合でも対応できるようにしている。前年度よりAEDの設置もあり、緊急時対応に活用している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署監修の下、年2回の夜間を想定した訓練を実施。スプリンクラーや通報装置は、定期的な点検を業者が行っており、火災時備える。今年度は、町内合同の大型地震を想定した訓練に参加。一時避難場所や避難ルート、連絡網等の確認を地域の方々と一緒に行った。	今回初めて町内の防災訓練が行われ、大々的な避難訓練に参加した。運営推進会議で報告も行っている。日頃から、防火責任者が避難経路の確保などに注意している。AEDの設置もあり、備蓄は水のみ確保されていた。避難方法などを新入職員に入所時に周知している。	地域の防災訓練には参加されている。今後は事業所の防災訓練に、自治会長や近隣の家族など地域の方のご案内や声かけが行われることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手に不快を与えないような声掛け・対応を重視している。特に、スタッフの声の大きさや排泄状況は、チェック表を活用するようにし、決して他入居者に聞こえないように細心の注意を払う。また、認知症支援の基本姿勢も含め、内部研修を取り組んでいる。	今年度は内部研修によって認知症状について学び、対応に関して見直した。個人情報についても、インターネットの資料を開いて内部研修を行った。トイレへの誘導などの声かけや、着衣の乱れなどが本人が恥ずかしい思いをしないような対応を行い、職員は個人情報の保護を理解して、写真の利用も同意を得て、内部の利用だけに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な入居者や自分の思いを言えない寡黙な入居者に対しては、入浴や散歩時のマンツーマン対応の際に意向を確認するようにしている。話しやすい環境作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務は決まっているが、あくまでも入居者本位である為、入居者のペースを尊重して、希望に沿って柔軟に対応している。入居者の言動より、「今・その時」を重視している。また、事故ひやり発生時は、適時業務の見直しを図る。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や衣類の乱れ・汚れ等、細かい部分まで目配りしている。また、訪問理美容時は、本人・家族の意向を確認するようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付け・下膳配膳等、できることはなるべく手伝っていただけようとしている(ケアプラン反映あり)。また、庭やプランターの活用により野菜作りを行い、おやつメニューに変化を加えている。食事は進まない方へは、少しでもご自身で召し上がっていただけるよう、席替えや提供方法を適時見直している。	盛り付けや、食器洗いなど、出来る方には役割を作ってプランにも反映している。本部の栄養士がメニューを管理し、食材を手配しており、専任の調理師が昼夜の調理を行う。おやつのお買い物や、おやつ作りも一緒に行うこともある。菜園で夏・秋の野菜と一緒に作り、収穫時は一品増やし楽しんでいる。検食の職員が各ユニットに1名おり、一緒に食べている。	

H26自己・外部評価表(GHアソシエ和白)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が低下している方へは、主治医の見解を確認して、代替食・栄養補助食の検討を行う。また、定期的な採血を行い、身体への影響の早期発見につなげる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、必ず声掛けを行い、習慣化できるよう支援を行っている。訪問歯科や歯科受診を活用しながら、その方に合った口腔ケアの情報を得ている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツに頼らないよう、また極カトイレでの排泄を心がけ、定時の誘導を行う。失敗が続く入居者に対しては、適時泌尿器科の受診も行い、原因の追究を行う。	トイレでの排泄を基本にして、排泄チェック表を元にパターンを把握して、トイレ誘導している。排便の確認も行い、便秘が続く方には、3日程度で下剤の利用など検討している。介助時のプライバシーや、恥ずかしい思いをしないようにも配慮している。退院された方も、状態把握を行い、職員間で共有しながら、誘導働きかけを行い、紙パンツから布パンツに改善された方がいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前・午後にストレッチをする時間を設ける。また、朝食には必ずヨーグルトは配膳される。何よりも、排便困難者には、一日の水分摂取量の把握に努め、少しでも摂取していただけるよう誘導や声掛けを行う。※ゼリーや寒天の使用も行う。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に、曜日が決まっているが、本人の希望に沿って柔軟に対応する。最低、週2回は入っていただくことができるよう、誘導を工夫する。希望があれば、夕方もしくは夜間帯に対応する。また、シャンプーや入浴剤など、個人の好みのものを使用するようにしている。	1階は機械浴、2階は普通浴で、1元気な方は普通浴に、介助が必要な場合に機械浴と必要に応じてそれぞれを利用している。週2回の入浴を基本に、11時から1～2人、2時～4時、5時～6時までは柔軟に対応し、お湯の入れ替えも適宜行っている。定期的に家族の支援で温泉に行かれる方も居る。状況を見て夕食後に対応したこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・食事・消灯等、ある程度の時間を設けているが、柔軟に対応する。特に、お昼休み(お昼寝)は、無理強いをせず、個々人の希望に沿うようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、薬局より何部か印刷してもらいいつでも回覧できるようにしている。また、錠剤を顆粒にして良いのか、内服薬・外用薬・貼用薬等、その方の状態に合わせた服薬の支援を主治医・薬剤師と行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく個人のタイミングを大切に(外出・散歩等)。また、計算問題の実施も行う。また、地域の喫茶店や公民館のお茶会に足を運び、環境の変化を大切にする。		

H26自己・外部評価表(GHアソシエ和白)確定

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関のオートロック以外は、基本的に施錠せず本人のタイミングを重視する。外出しクリエーションにはスタッフが意欲的に取り組み、季節に合わせた場所(バラ園・コスモス・ホテル等)の検討を行う。遠方への外出は家族に依頼し、温泉や旅館等、定期的に出かけている入居者がいる。	外出行事は、ユニット毎に年6回程度計画して行っている。花火・野球観戦・コスモスなどの花見・ホテル鑑賞などを楽しんだ。日頃はスーパーや散歩、歩いて月1回のふれあいサロン、公園など車椅子の方も支援している。1階はリビングからベランダに出やすく、自由に外に出て気分転換が出来ている。	1階はベランダがあり自由に外に出られるが、2階の入居者にも、外出支援のきっかけになるように、テラスにベンチやプランターでお花を育てて、外気浴などに役立ててはどうだろうか。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの理解も多く、「無くなっても良いから」と現金を所有している入居者が数名いらっしゃる。買物時は、「私が払うよ」との申し出もあり、支払を通して、コミュニケーションを図る。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の自主性を尊重し、要望があれば適宜対応している。また、ご家族からも「本人に代わってください」との要望がありその都度対応する。エメールや贈り物の返事等、字を書くことができる入居者へも対応する。			
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故防止の為(避難経路確保の為)、決められた時間に清掃や整理をスタッフが行う。また、環境・設備・リスク等、スタッフ間で役割(係決め)を分担し、計画を立て、毎月のカンファレンスにて進行状況の発表を行う。また、季節に応じた飾り付けも行ったり、各イベントの写真を貼り出している。	共有室内の各所に加湿器が置かれ過ごしやすいく適温に管理されている。今月は12月、手作りの大きなクリスマスツリーが飾られ、季節感のある飾り付けがなされていた。窓枠からの公園の眺めや、中庭の芝生が目にも優しく、日当たりや風通しも良い。ライトブラウンのフローリングで、1階の地域交流室や、2階の畳みスペースなど、和室の空間も設けられている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに畳やソファがあり、各々の空間作りに努めている。また、庭や隣接する公園を活かし、気の合う入居者同士で散歩に出かけられるようにしている。庭への散歩は、スタッフは極力介入しないようにしている。			
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや家具、テーブル等、居室へは自由に持ち込んでいただいている。また、入居前の写真や家族の写真を飾ることで、「我が家」のような雰囲気作りにも努めている。家族面会用の椅子を持ち込まれる方もいらっしゃる、長時間の面会を可能とする。	ホールからの続きで、フローリングの洋間である。個室面積はかなり広く、ゆったりと余裕のある室内である。介護ベットと小タンスが備え付けられており、テレビなどやその他馴染みのものは自由に持ち込める。家族や知人が訪ねて来ても、自室でゆったり過ごせるゆとりもあり、それぞれが過ごしやすいく居室作りをしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで段差がなく、車椅子の方や歩行困難な方(拘縮・パーキンソン病)が自由に歩行しやすい環境である。また、手すり等も多く設置されており、なるべく自身で行きたい場所に行くことができるよう配慮している。			